

平成 14 年 度

兵庫県立農林水産技術総合センター 年 報
(農業編)

兵庫県立農林水産技術総合センター

目 次

I 組 織

1 位 置	1
2 施 設	1
3 予 算	1
4 機 構	2
5 職 員	3

II 業 務

1 試 験 研 究	9
(1) 項目一覧	9
(2) 主要な成果	19
(3) 新規に実施した業務	37
2 普 及 活 動	47
(1) 改良普及員の資質の向上	47
(2) 生産振興・地域農業の推進	48
3 教 育 ・ 研 修	54
(1) 養成部門	54
(2) 研修部門	56

III 業 績

1 普及に移した新技術	59
2 センター研究報告に登載した事項	65
3 外部に発表した事項	66
4 表彰・受賞等	89
5 研究員の派遣	89
6 研修生・見学者の受入れ	89
7 資格・認定研修への講師派遣	92
8 出 版 物	93

1 試験研究

(1) 項目一覧

国庫助成・受託

(※印 抄録掲載)

試験研究課題	研究期間	担当
有機質資源連用試験		部長(農林水産環境担当)
(1) 水田(水稻栽培)の土壌管理と地力変動	平10~14	〃
※(2)タマネギー水稲(二毛作田)に対する土壌改良対策試験	平10~14	〃
※野菜における硝酸塩蓄積機構の解明と低減化技術の開発	平14~16	〃
胚の大量生産による優良牛の増産技術の開発	平13~17	部長(生物工学担当)
(1) 体細胞クローン牛の生産効率の向上		
(2) 核移植関連胚の長期保存技術開発		
(3) 核移植再構築胚の正常性の検討		
(4) 性判別胚の受胎率向上のための操作胚の凍結保存技術の開発		
※地域特産農産物の業務用途向け差異化識別技術の開発	平12~14	部長(食品加工流通担当)
(1) 差異化識別技術の検討		
(2) 業務用途向け処理技術の開発		
(3) 開発食品の品質保持期限の策定		
麦類の新品種育成及び品質制御技術の開発	平13~15	作物部
兵庫県における小麦有望系統の品質・収量の高位安定化肥培技術の確立		
(1) 高品質有望品種(系統)の早期選定のための特性調査		
(2) 生育診断による蛋白質含有率の高位安定化		
(3) 不耕起栽培を導入した作付体系と省力肥培管理技術		
※超低樹高化を基幹としたクリ園管理の平易・軽労化と早期成園化技術の開発	平11~14	園芸部
(1) 低樹高整枝法の開発		
(2) 樹体、園地管理の平易・軽労化技術の開発		
(3) 早期成園化法の開発		
※国産野菜の持続的生産技術の開発(短節間トマト周年栽培における高品質生産技術の確立)	平14~16	〃
(1) 新育成系統の生育特性・適応性調査		
(2) 房穫り一斉収穫及び高品質生産のための生育制御技術の確立		
ナス科野菜の特性検定試験	継 続	〃
生物農薬を核とした施設野菜等の持続的安定生産技術の確立	平11~15	病虫害防除部、淡路農技農業部
(1) 生産者減収許容水準の策定及び病害発生実態の把握		
(2) 微生物農薬の利用法の確立		
(3) 病害抵抗性向上資材の利用法の確立		
※レタスの土壌伝染性病害(ビッグベイン)の発生抑制技術の開発	平12~14	病虫害防除部、部長(生物工学担当)、淡路農技農業部
(1) オルピデュム菌の菌密度把握技術と防除技術の評価法の開発		
(2) 定植後感染時間及び感染時期と被害解析		
(3) 太陽熱利用土壌消毒後再汚染機構の解明		
(4) 有効薬剤の選抜とその利用技術の開発		
(5) 内生細菌及び密度低減資材利用法の開発		
(6) 抵抗性品種の選抜と栽培条件改善による発病抑制技術の開発		
(7) 各種防除技術の組み合わせ体系化実証		
クリーンエネルギーを利用した野菜の生産安定技術	平13~17	園芸部、病虫害防除部、部長(農林水産環境担当)、経営・機械部
(1) 雑草、害虫の発生実態の把握と基幹技術導入条件の解明		
(2) 太陽熱、熱水消毒による雑草防除、害虫の密度及び土壌養分集積抑制技術の開発		
(3) 耕種、物理、生物的手法を用いた害虫防除技術の開発		
(4) 養分集積土壌における施肥管理と低硝酸野菜生産技術の開発		
(5) 耕種、物理、生物的手法を組み合わせた雑草、主要害虫、栄養障害に対する総合技術体系の実証		
※シカ等の農作物被害防止技術と被害軽減型ほ場管理技術の実証	平14~15	病虫害防除部、経営・機械部、北部農技農業部
(1) シカ等の農作物被害防止技術の実証		
(2) 被害軽減型圃場管理技術の実証		
粘質土地域における複年輪換畑ヤマノイモ、黒大豆の省力・低コスト生産体系の確立	平11~15	経営・機械部、北部農技農業部
(1) 粘質土地域における複年輪換畑ヤマノイモ、黒大豆の省力、低コスト生産体系導入条件の解明		
(2) 複年輪換畑ヤマノイモ、黒大豆生産における省力・軽労化技術の開発		
(3) 中核農家における複年輪換畑ヤマノイモ黒大豆の省力生産体系現地実証と経営評価		

国庫助成・受託

(※印 抄録掲載)

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
カーネーションの養液土耕による省力・高品質・安定生産技術の確立 (1) カーネーション溶液土耕システムの確立 (2) 灌液管理技術の開発 (3) 灌液プログラムの作成と実証・評価	平13～15	淡路農技農業部
種雄牛の遺伝的産肉能力の明確化による合理的肥育技術の開発 (1) 但馬牛の成長ホルモン遺伝子多型と育種価及び産肉性との関連性の検討 (2) 各成長ホルモン遺伝子型牛における成長ホルモン分泌能検討 (3) 各成長ホルモン遺伝子型の肥育方法の開発	平11～15	家畜部

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
地域特産物における効果的で安全な農業使用技術の確立 水稲・麦に対する堆肥及び肥料三要素試験 (1) 水稲に及ぼす影響 (2) 麦に及ぼす影響 (3) 土壤に及ぼす影響	平13～17 継 続	部長 (農林水産環境担当) 〃
有機性廃棄物由来炭の野菜栽培への施用効果 炭の種類・施用量が野菜の生育に及ぼす影響	平14～15	〃
酵素標識免疫測定法 (E L I S A) を利用した簡易残留農薬分析法の開発 (1) E L I S A キットの精度と交差反応性 (2) E L I S A による作物残留農薬分析法の確立 (3) 従来法との比較評価と簡易測定法の組立 (2) ピーマン白絹病における農業安全使用技術	平12～14	〃
集落排水汚泥コンポストの農地施用による土壤・作物体への影響 (1) 汚泥コンポストの施用が作物の生育・収量及び吸収に与える影響 (2) 汚泥コンポストの施用が重金属の土壤集積等土壤に与える影響 (3) ポット試験による重金属の土壤への蓄積と流亡及び作物体への影響 (4) 土壤集積ならびに作物吸収からみた集落排水汚泥コンポスト施用指針の作成	平10～16 継 続	〃 〃
ほ場整備事業における土壤調査 ※各種遺伝資源の利用による「丹波黒大豆」への病害抵抗性付与技術の開発 (1) 黒大豆栽培圃場からの土壤伝染性病原菌の採取とレースの分類 (2) 抵抗性遺伝子導入のための系統の育成	平14～18 継 続	部長 (生物工学担当) 〃
※遺伝子診断を利用した酒米育種と栽培評価システムの開発 (1) D N A マーカーによる選抜技術の構築 (2) 酒米品質向上のための登熟生理の解明	平14～18	〃
有用遺伝子の探索と利用技術の開発 (1) 新規 P 450 遺伝子の有効性の検討 ① 新規 P 450 遺伝子の機能解析 ② 新規 P 450 遺伝子の発現調節領域の解析	平13～22	〃
生殖細胞 D N A 診断技術の開発による優良牛の早期選抜 (1) 生殖細胞を用いた D N A 診断技術の確立 (2) 生殖細胞の D N A の遺伝様式の解明 (3) D N A 診断胚の生存性の向上 (4) D N A 診断胚の超低温保存技術の確立 (5) D N A 診断胚の移植試験	H13～17	〃
生物工学的手法を用いた農業生産振興対策試験 (1) 地域特産物のウイルスフリー化と大量増殖技術の開発 ※ (2) レタスビッグベインウイルスの検定技術の確立	継 続 平13～15 平11～14	〃 〃 〃
有用植物遺伝資源の収集保存試験 農業に関するアイソトープ利用試験 県産ブランド米の高品位栽培・流通技術の開発 (1) 米の品質評価及び機能性評価 (2) 米の加工適性評価及び加工品の開発 (3) 米の高品位流通技術の開発	継 続 継 続 平13～16	〃 〃 部長 (食品加工流通担当)
兵庫ブランド農産物の機能性評価など優位性実証技術の開発 (1) 特産農産物の品質特性の調査 (2) 特産農産物の特性を生かした保存、加工法の確立	平13～15	〃
新製品開発試験 (1) 現地相談等対応試験	平14～	〃
※(2) 地域色を生かしたワイン製造 (3) ひょうご豊かな米作り推進対策関連試験	平13～14 平13～17	〃 〃
※中国広東省との共同研究による環境調和型水稲品種の育成試験 (1) 新しい水稲品種の育成 (2) ハイブリッド稲育成技術に関する情報交換とその利用 (3) ウンカ・コブノメイガ等飛来害虫の発生状況調査データの収集	平10～14	作物部

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
水田機能の維持・活用のための飼料用稲栽培技術の確立	平13～15	作物部
酒造好適米の品質評価方法の開発と利用	平11～17	作物部（酒米試験地）、 部長（食品加工流通担当）
(1) 酒米の微量簡易酒造適性判定法の開発と有望系統の評価		
(2) 少量醸造試験・酒質評価法の開発		
(3) 新評価法の応用による新品種の育成及び栽培技術の確立		
(4) データバンクの構築		
奨励品種決定基本調査	継 続	作物部、北部農技農業部
奨励品種決定基本調査（水稻・麦・大豆）		
原々種栽培	継 続	作物部、北部農技農業部
原々種栽培（水稻・麦・大豆）		
作物品種改良試験		作物部
(1) 水稻新品種育成試験	継 続	
(2) 大豆品種比較試験	継 続	
作物栽培法改良試験		〃
(1) キヌヒカリの乳白米低減技術の確立	平14～16	
(2) 不耕起狭条無培土栽培による大豆省力安定多収生産技術の開発	平13～15	
(3) 微細気象環境の把握と作物の収量・品質予測技術の開発	平13～15	
(4) 携帯型葉中窒素測定装置の利用による栄養診断法の確立	平13～14	
(5) 気象感応調査（水稻・麦）	継 続	
酒米改良試験		作物部（酒米試験地）
(1) 酒米新品種育成試験	継 続	
(2) 掛米専用品種の育成	継 続	
(3) 酒米の気象感応調査	継 続	
※(4) 紫黒米「むらさきの舞」の栽培技術の改善	平12～14	
(5) 極早生酒米品種の品質向上技術の開発	平14～15	
(6) 酒米玄米形質の遺伝解析	平14～16	
原種生産管理改善試験		作物部（原種農場）
(1) 大豆の発芽安定化試験	平13～14	
※(2) 殺菌剤を用いた発芽安定化試験	平13～14	
新方式高設隔離床栽培によるイチゴの環境負荷軽減型生産体系の確立	平12～15	園芸部
(1) 高設隔離床栽培装置の開発		
(2) 環境負荷軽減型生産体系の確立		
(3) 新生産体系による栽培実証		
イチジクの超早期成園化による増収技術の確立	平13～17	〃
(1) 整枝せん定法及び新梢管理法の開発		
(2) 若木の着果及び収量安定化		
(3) 成園化後の追跡調査		
(4) 超早期成園化のマニュアル作成と経済的評価		
シンテッポウユリの作型開発と機械定植栽培技術の確立	平13～15	〃
(1) 10～11月開花の抑制栽培技術		
(2) 機械定植に対応したセル成型育苗		
(3) 技術の組み立て実証		
※夏秋ギクの生産性向上と省力生産システムの開発と実証	平14～16	〃
(1) 生産性向上技術の開発		
(2) 省力生産システムの開発		
(3) 技術の組み立て実証及び現地実証		
野菜園芸改良試験		〃
(1) 少量培地隔離床栽培によるトマトの栽培技術の確立	平13～15	
※(2) 果菜類の環境と調和した持続的な栽培技術の確立と実証	平14～18	
※(3) 伝統野菜並びに地域固有野菜の探索・保存と栽培技術の確立	平14～18	
※(4) 生分解性資材による露地マルチ栽培の収量安定性とその向上策の検討	平14～16	
(5) 果菜・葉菜類の作型別適品種の選定と栽培法の改善	継 続	
花き園芸改良試験		園芸部
(1) 花き類の新品目開発、優良品種の選定及び栽培方法の改善	平13～15	
※(2) 大輪バラの一定長収穫法による良品多収技術の開発と実証	平14～16	
(3) 21世紀ひょうごの新花きの創出	平12～14	

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
果樹園芸改良試験		園芸部
(1) 大粒系ブドウの品質向上対策	平13～15	
(2) ブドウの垣根整枝における高品質果安定生産技術の確立	平11～15	
(3) モモの樹勢制御による品質向上技術	平13～15	
(4) 兵庫ブランド果樹確立に向けた優良品種地域適応性検定試験	継 続	
菓草改良試験		〃
(1) トウキ苗の安定生産と収益性向上	平13～15	
カメムシ類のフェロモン及び誘引物質の探索とその利用法の開発	平13～17	病害虫防除部
(1) 斑点米多発生地域におけるカメムシ類の種類と発生消長		
(2) 防除対策の検討		
(3) フェロモン・誘引物質の検索と利用		
昆虫機能を利用した害虫の安定的防除技術の開発	平13～17	〃
(1) 光を利用した害虫防除		
(2) 天敵利用法の確立		
(3) 性フェロモンを利用したハイマダラノメイガの予察法の確立		
病害抵抗性品種と内生細菌の相互反応による病害制御技術の開発	平13～17	〃
(1) 内生細菌とトマト品種との関係		
(2) 内生細菌とハクサイ品種との関係		
(3) 病害抵抗性向上現象の解明		
病害虫防除試験		〃
(1) イネいもち病、紋枯病調査データベース化と発生予察手法の効率化	平13～15	
※(2) イネ内穎褐変病の発生生態と防除法	平14～16	
(3) 生理障害の原因究明と防除対策	平11～	
(4) イネ主要害虫の調査データベース化と発生予察手法の効率化	平13～15	
(5) 臨機対応が求められる害虫の原因究明と防除対策	平13～17	
小規模野菜産地における産直・地場流通システムの構築	平13～15	経営・機械部
(1) 小規模産地野菜作農家の特徴と集出荷組織化の問題点の明確化		
(2) 小規模産地における直売組織の成立条件と運営管理法の解明		
(3) 小規模産地の情報発信とシステム化		
※特定需要向けレタスの経営方式と省力機械化体系の確立	平14～16	経営・機械部、園芸部
(1) 特定需要向けレタスの経営動向及び市場動向調査		
(2) 特定需要向けレタスの栽培技術の確立		
(3) 特定需要向けレタスの省力機械化体系の確立		
(4) 特定需要向けレタスの現地実証と経営評価		
農業機械化試験		経営・機械部
(1) 地域特産野菜等の高品質・省力・軽労働機械化作業技術の開発	平14～16	
(2) 紙マルチとグラウンドカバープランツによる畦畔の低コスト省力施工・管理技術	平14～16	
(3) 土壌モルタル管理道の耐久性と維持管理法	平14～17	
農業経営試験		〃
(1) 耕種農家の堆肥施用条件の解明	平14～15	
(2) 傾斜畑造成による麦・大豆栽培の効果算定と集落営農への導入条件	平14～16	
(3) 地域営農計画のシミュレーションモデルの構築	平14～16	
野菜栽培における吹き付けマルチ敷設法の開発と利用技術の実証	平13～15	北部農技農業部
(1) 吹き付けマルチに適した資材の探索		
(2) 吹き付けによるマルチ敷設法の開発		
(3) 吹き付けマルチによる野菜栽培の検討		
ナシの密植・2本主枝による省力・高品質多収栽培技術の開発	平12～15	〃
(1) 2本主枝による省力多収栽培のための側枝管理法		
(2) 2本主枝における高品質果実生産のための着果管理法		
(3) 2本主枝整枝における省力化と経営改善効果		
ピーマン白絹病菌の生活環の究明と防除対策	平13～15	〃
(1) 2本主枝による省力多収栽培のための側枝管理法		
(2) 白絹病防除技術の確立		
但丹地方における農作物の品種並びに栽培法改善		〃
(1) 水稲気象感応調査	継 続	
※(2) 持続性の高い水稲栽培法の確立と実証	平14～17	
※(3) 「コシヒカリ」の乳白米対策試験	平14～16	
(4) 酒米新系統「兵系酒66号」における栽培法の検討	平14	
(5) 持続性の高い黒大豆栽培法の確立	平13～16	

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当	
(6) シバ等植生による畦畔・法面省力保全管理技術の開発と中山間牧野への応用	平13～14	北部農技農業部	
※(7) ヤマノイモコガの発生生態と防除体系の確立	平13～14		
※(8) 斑点米カメムシの防除対策	平12～14		
梨等地域特産果樹改良試験	継 続		
(1) ナシ気象感応試験	平11～18		
(2) 但馬丹波地域に適するナシ品種の選定	平10～14		
※(3) 有機資材による特産ナシの高品質化	平14～17		
(4) ポスト二十世紀梨の選定と栽培実証	平13～14		
※妊娠放牧牛の栄養度の推移が産子の発育及び繁殖性に及ぼす影響	平13～14		◇
(1) 育成牛の放牧飼養の実証			
(2) 放牧未経験経産牛の放牧飼養の実証			
※超早期母子分離子牛の育成後の繁殖性と肥育性の検討	平14～18	◇	
(1) 育成期に給与する濃厚飼料の粗蛋白質含量の違いが子牛発育等に及ぼす影響			
(2) 育成期に給与する濃厚飼料の粗蛋白質含量の違いが繁殖性に及ぼす影響			
(3) 育成期に給与する濃厚飼料の粗蛋白質含量の違いが肥育性に及ぼす影響			
新育種手法開発調査試験	継 続	◇	
(1) 種牛の遺伝的産肉能力の推定			
(2) 血統構成の分析と指定交配計画の策定			
※自動哺乳装置を用いた黒毛和種子牛の集団哺育・育成システムの開発	平12～14	◇	
(1) 自動哺乳パターンの検討			
(2) 粉末初乳とその給与方法が子牛の抗体価及び下痢発生及び子牛の発育に及ぼす影響			
(3) 日齢の異なる同居牛群における適正な牛群構成の検討			
(2) センター内牛群を用いた普及性の試算			
※凍結保存優良但馬牛胚の受胎率の向上現場実証	平14～16	◇	
(1) 新規排卵同期化法の開発			
(2) 定時胚移植技術の開発			
※レタスの減量・効率施肥を考慮したボリュームアップ化技術の確立	平12～14	淡路農技農業部	
(1) 養分吸収量、肥効の解明による施肥の減量・効率化			
(2) 冬どりレタスの生育・品種特性の解明による栽培法改善			
特産露地野菜の気象変動に対応する補完的簡易施設を利用した安定生産技術の確立と実証	平13～15	◇	
(1) 気象変動に対応する苗生産体系の確立と実証			
(2) 全天候型開閉式育苗施設の改善			
カンキツ、ビワの需要変化に即応できるフレキシブルな果樹園システムの開発	平13～17	◇	
(1) 大容量プランターによる新栽培システムの開発			
(2) 新栽培システムにおける高品質栽培技術の確立			
(3) フレキシブルな果樹園システムのマニュアル化			
※淡路公園島憲章に基づいた花きによる景観形成技術の開発と新しい産業の育成	平13～14	◇	
(1) 1、2年草、宿根草類による景観形成と園芸利用			
(2) 自生植物の園芸化と利用技術の開発			
淡路地方の園芸作物の品種栽培試験	継 続	◇	
(1) 特産野菜の適品種選定（タマネギ、レタス）			
(2) カーネーションの長期連作が収量品質および土壌の変化におよぼす影響（21作目）			
(3) 品質保証制度に対応した流通技術の開発	継 続		
(4) カーネーションの品種の選定	平成14年		
(5) ストックの品種の選定	平14～15		
(6) 耕種的・物理的害虫防除技術の開発	平9～14		
(7) 低樹高ビワ園の安定生産技術の確立	平11～18		
(7) 低樹高ビワ園の安定生産技術の確立	平10～14		
※(8) 不知火の安定生産技術の確立	平12～14	◇	
(9) 新特産果樹の種類及び品種の選定	継 続		
※タマネギ灰色腐敗病における薬剤耐性菌防除技術の確立	平12～14	◇	
(1) 発生実態と原因究明			
(2) 防除対策の検討			

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
性フェロモンによる交信攪乱を用いたレタスのヨトウムシ類の防除 (1) 交信攪乱剤の防除効果の検討 (2) 総合防除体系の確立	平13～15	淡路農技農業部
淡路地域における環境負荷軽減および省力化のための野菜害虫効率的防除法の確立 (1) レタスにおける害虫の効率的防除技術の検討 (2) イチゴにおける害虫の効率的防除技術の検討	平13～17	〃
キクの芯止まり症状の原因究明とその対策 (1) 被害発生の原因究明 (2) 各種防除対策の確立	平13～15	〃
環境負荷低減と効率的生産を両立するための乳牛飼養技術の開発 (1) 最も効率の良い濃厚飼料のタイプ別給与順序の検討 (2) ルーメン発酵最適化を実現する新給与システムの開発 (3) 酪農家における現地実証	平13～17	淡路農技畜産部
乳用牛の生産性を高める哺育育成技術と栄養モニタリング技術の確立と実証 (1) 哺乳期の飼料給与方法の検討 (2) 育成期の飼料給与法の検討 (3) 発育指標としての栄養モニタリング技術の確立	平13～15	〃
凍結保存高泌乳牛胚の受胎率向上現地実証試験 (1) 超急速ガラス化法による雌雄判別杯の品質・発育ステージごとの生存率の比較 (2) 乳用牛雌胚・F1性判別胚を移植して受胎性の検討	平13～14	〃
家畜ふん尿処理と利用技術の確立と実証 (1) 深型攪拌式乾燥発酵装置の性能調査 (2) 攪拌乾燥装置及びスクープ式発酵装置の実態調査 (3) 尿の悪臭防止対策	平13～17	〃
黒毛和種去勢牛の育成時における発育速度が産肉性に及ぼす影響 (1) 育成時の飼料給与パターンの違いと子牛の発育の検討 (2) 育成時の飼料給与パターンの違いと肥育成績の検討	平10～15	家畜部
但馬牛の遺伝学的改良手法の開発 (1) DNAマーカー(マーカー)を用いたQTL解析 (2) 統計遺伝学的手法による検討	平13～17	〃
※消費者の求める美味しい牛肉の評価基準の開発 (1) 美味しさに関する成分の検討 (2) 牛肉脂肪の簡易評価における光学的技術の応用性の検討 (3) 美味しさ成分の遺伝的影響の検討 (4) 植物性製造粕の美味しさ成分への影響の検討 (5) 肥育基幹の旨味成分への影響の検討 (6) 給与飼料中の穀物が美味しさ成分へ与える影響の検討	平14～18	〃
※飼料添加による豚肉の高品質・高付加価値化技術の開発 (1) 豚肉中のアミノ酸強化技術の検討 (2) 豚肉中の粗脂肪含量強化技術の検討	平12～14	〃
家畜用飼料として利用可能な食品産業廃棄物の検索と飼料化技術及び実証試験 (1) 食品産業廃棄物の家畜用飼料としての適性評価 (2) 家畜用飼料としての代替割合の検討	平13～17	〃
※育成期の飼養管理が産卵期の卵殻質に及ぼす影響の検討 (1) 育成期の飼養形態と各種添加剤が骨格形成に及ぼす影響の検討 (2) 育成期の骨格形成が産卵期の卵殻質に及ぼす影響の検討	平11～14	〃
「ひょうご味どり」の経済形質遺伝子検索による生産性の向上 (1) 選定されたDNAマーカーの育種改良への応用 (2) 体重及び腹腔内脂肪蓄積の関連遺伝子の検索 (3) 遺伝子診断を利用した種鶏の選抜	平13～17	家畜部
※植物と多孔質材を組み合わせた家畜尿汚水の低コスト処理技術 (1) 浄化能力の高いろ材の検索とその浄化能力の検討 (2) 浄化能力の高い植物の検索とその浄化能力の検討 (3) 上記の処理方法を組み合わせた浄化処理システムの検討	平12～14	〃

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
<p>《プロジェクト研究》</p> <p>農林水産物、食品残渣の有効利用技術の開発</p> <p>※(1) 大豆加工廃棄物および回収有価物の利用法</p> <p>(2) 大豆加工廃棄物の漁業用餌料利用</p> <p>(3) 食品産業廃棄物を利用したキノコ栽培と機能性食品への利用</p> <p>※農林水産業が持つ環境浄化機能の開発</p> <p>(1) 水田・ため池の持つ窒素浄化能の評価と浄化技術の開発</p> <p>(2) 人工衛星データによる農林水産水域の水質モニタリング手法の開発</p> <p>※農林水産業による景観・アメニティ・ビオトープ空間の創出</p> <p>(1) 景観・ビオトープに配慮したため池、畦畔の管理方法の評価と実証</p> <p>① ため池の現状把握と景観の評価</p> <p>② 管理技術の実証</p> <p>③ 管理技術の評価</p> <p>④ 畦畔雑草の生態調査と管理方法の開発</p> <p>⑤ 畦畔法面へのシバ類吹き付け植栽の適応性の実証</p> <p>(2) 景観・ビオトープに配慮した里山林の管理方法の評価と実証</p> <p>① 景観を高める果樹の植栽による里山林の活用等の促進</p> <p>② 草原、林縁植物の生育空間の創出</p> <p>(3) 幼稚仔魚のビオトープとしての渚の機能の解明</p> <p>農林水産業における海洋深層水の利用技術の開発</p> <p>(1) 但馬沖深層水の利用に関する共同研究</p> <p>(2) 但馬沖海洋深層水を利用した地域特産物の付加価値化</p> <p>野生獣の密度管理と被害防止技術の開発・改良</p> <p>兵庫県における二ホンジカの生息密度推定法</p> <p>(1) 生息密度推定法の確立</p> <p>(2) 生息密度と被害発生量の調査</p> <p>(3) 被害防止技術に関する調査</p>	<p>平14～16</p> <p>平14～18</p> <p>平14～18</p> <p>平14～18</p> <p>平14～18</p> <p>平14</p> <p>平13～17</p>	<p>部長（食品加工流通担当） 但馬水産技術センター 森林林業資源部</p> <p>部長（農林水産環境担当）、森林林業資源部、 水産技術資源部</p> <p>部長（農林水産環境担当）、作物部、園芸部、 北部農技農業部、森林林業資源部、水産技術資源部</p> <p>園芸部、森林林業資源部</p> <p>但馬水技センター 森林林業資源部</p> <p>森林林業資源部</p>

受 託

試 験 研 究 課 題	委 託 機 関	担 当
熱水・土壌消毒による有害動植物管理技術の確立	施 設 園 芸 協 会	病害虫防除部
新農薬応用試験	兵 庫 県 植 物 防 疫 協 会	作物部、園芸部、部長（農林水産環境担当）、病害虫防除部
稲民間育成品種の評価に関する試験	(社)農林水産先端技術産業振興センター	作物部
※野菜類の省力適正品種育成による省力・軽作業化栽培技術の開発 （短節間トマト周年栽培における高品質生産技術の確立） (1) 新育成系統の生育特性・適応性調査 (2) 房穫り一斉収穫及び高品質生産のための生育制御技術の確立 (3) 低樹高の誘引・整枝法の解明と周年栽培の検討	独立行政法人農業技術研究機構	園芸部
国際協力事業団研修	国 際 協 力 事 業 団 三 原 町 ・ 西 淡 町	部長（農林水産環境担当） 部長（農林水産環境担当）
ほ場整備前の土壌調査	社 町 ・ 神 戸 市	
作物生育情報測定装置の性能試験	農 産 業 振 興 奨 励 会	経営・機械部

事 業

試 験 研 究 課 題	依 頼 機 関	担 当
※農用地土壌から農作物へのカドミウム吸収抑制技術等の開発に関する研究	普 及 教 育 課	部長（農林水産環境担当）
農薬残留安全確認調査事業	〃	〃
農薬残留対策調査受託事業	〃	〃
安心ブランド生産システム確立事業	〃	〃
農林畜産公害対策	〃	〃
環境保全型有機質資源施用基準設定調査事業	農 産 園 芸 課	〃
肥料検査取締事業	〃	〃
土壌機能実態モニタリング調査	〃	〃
地力増進対策診断指導事業	〃	〃
環境保全型土壌管理対策推進事業	〃	〃
ため池の水質調査	農 地 防 災 室	〃
集落排水汚泥コンポストの農地施用による土壌・作物体への影響	農 地 整 備 課	〃
優秀牛群緊急増殖パイロット事業	畜 産 課	部長（生物工学担当）
超高能力乳用牛増殖促進事業	〃	〃
食品産業振興対策事業 (1) 新製品・新メニュー開発推進事業 (2) ひょうごフードシステム推進事業 (3) 食品産業対応型フードシステム実践事業 (4) 食のゼロエミッション推進事業	地 域 産 業 政 策 担 当	部長（食品加工流通担当）
消費者食糧農業啓発推進事業	〃	〃
まちとむらを結ぶ食料教室開催事業	〃	〃
ひょうごブランド商品育成事業	〃	〃
野菜振興対策費	〃	〃
業務用需要対応野菜安定供給推進事業	〃	〃
花き・果樹特産振興対策費	〃	〃
ひょうごの果樹・茶産地レベルアップ事業	〃	〃

事 業

試 験 研 究 課 題	依 頼 機 関	担 当
※原種圃設置事業	農 産 園 芸 課	作物部 (原種農場)
※委託原種圃設置事業	〃	〃
※麦・大豆原種生産対策事業	〃	〃
第Ⅱ期ひょうご豊かな米づくり推進対策事業	〃	作物部、部長(食品加工流通担当)
奨励品種決定調査事業	〃	〃、北部農技農業部
病害虫発生予察事業	普 及 教 育 課	病害虫防除部(病害虫防除所)
病害虫防除対策事業	〃	〃 (〃)
農業機械化推進事業	農 産 園 芸 課	経営・機械部、農業大学校
畜産ふん尿処理技術実用化調査事業	畜 産 課	家畜部、淡路農技畜産部
※家畜人工授精事業	〃	〃、北部農技畜産部、淡路農技畜産部
豚産肉能力直接検定事業	〃	〃
豚産肉能力間接検定事業	〃	〃
ひょうご味どり造成普及事業	〃	〃
※鶏能力検定推進事業	〃	〃
流通飼料品質改善対策事業	〃	〃
飼料生産利用高度化推進事業	〃	〃
家畜DNA育種基盤事業	〃	〃、(部長) 生物学担当
※肉用牛産肉能力検定事業 (家畜人工授精事業)	〃	北部農技畜産部
(1) 直接検定試験		
(2) 現場後代検定		
但馬牛改良推進対策事業	〃	〃、淡路農技畜産部
優良乳用雌牛効率生産対策事業		淡路農技畜産部
超高能力乳用牛増殖促進事業	〃	〃
乳質改善指導事業	〃	〃
乳用牛群検定普及定着化事業	〃	〃
飼料作物関連事業	〃	〃